令和５年度 第１回 二宮町下水道運営審議会会議録

日　時　　令和５年１１月７日（火）　午後１時５５分から午後３時０５分
場　所　　二宮町役場　第１会議室及びオンライン
出席者　　大田博樹会長、村田耕一郎副会長、山田修委員、星野郁夫委員、松尾武保委員、
　　土谷美智代委員、原美耶委員
欠席者　　山下真理子委員
事務局　　都市部長、下水道課長、業務班長、業務班主査
傍聴者　　なし

・開会

・会長あいさつ

・議題
（１）令和４年度二宮町下水道事業の決算状況について
　事務局より資料１－１・資料１－２に基づき説明。

委　員：資料１-２の⑤の人口普及率が、令和3年度と変わらずに90.4%、それに対して④の水洗化率が1%上がって84.2%、これはどういうふうに見たらいいでしょうか。

事務局：処理区域内人口というのは、下水道が整備され使える区域の人口になるので、接続をしてない方もその中には含まれます。そのうち、接続水洗化率が向上しているというのは、接続が増えてきた、という指標になります。

委　員：水洗化率というのは近隣の平塚とか大磯、小田原と比べてどうでしょうか。

事務局：小田原は令和2年度で93.8%ぐらい、大磯町は、7割程度です。

委　員：平塚はかなり水洗化率が高いと聞いていますが。

事務局：大きな都市は、下水道事業を開始したのが、二宮町に比べて早くから整備し接続も進んできたという結果、水洗化率が高い、接続率は高いのが実情かと考えています。

委　員：汚水処理原価算出の有収水量の把握はどうやっているのですか。

事務局：上水道を使用した量を基にして、下水道の排水量を計算します。

委　員：二宮町内に給水しているところに流量計があるのですか。

事務局：各お宅に設置されている水道メーターで計量したデータを使用しています。

委　員：二宮町は県営水道の給水区域なので、県企業庁が検針をしています。
上水道の使用量イコール下水の使用量ということで、料金を一括して徴収しています。

会　長：資料の１－１を見る限りでは、行政の会計ですので利益を目的としてないので、歳入と歳出を比べても、それほどバランスが悪いわけでもなく、予定通りの町債の返還も進んでいますので大きな問題はないという印象を受けました。
資料の１－２についても、例えば⑧番の経費回収率が大きく変動していますが、打ち切り決算の影響を受けているということで、例年通りの数値の推移かなという印象を受けました。

（２）二宮町下水道事業の公営企業会計移行について
事務局より資料２－１・資料２－２に基づき説明。

会　長：資料２－２のキャッシュフロー計算書は、資金繰りがどうなっているかを表している書類になります。
チェックポイントは３つで、営業活動と投資活動と財務活動のお金がどうなっているかを見ます。
業務活動によるキャッシュフローがプラスになっているのが基本前提ですね。
例えば、100円で買ったものを110円で売るのが前提ですが、100円で買ったものを90円で売ってしまうと売れば売るほど赤字になってしまいます。
そういう状態になった場合、業務活動によるキャッシュフローが赤字になってしまいます。今回の二宮町のキャッシュを見たところプラスになっていますので、下水道事業というのは、利益を上げることを目的としているわけではないので、プラスになる必要はないですが、事業そのものは全く問題ないという印象を受けました。

二つ目の投資活動と財務活動についてはプラスでもマイナスでもどちらでも問題ありません。投資活動については、何かに積極的に投資をすると、組織からだんだんお金が出ていってしまうのでここはマイナスになってしまって、逆に今持っている固定資産を売却すると、組織にお金が戻ってくるので、ここがプラスになるというだけで、その組織が積極的に何かに投資しているのか、或いは今持っている固定資産を売却して、事業展開を図っているのかその違いを見るだけです。
二宮町の場合で見るとマイナスになっていますので、今持っている固定資産に対してさらに追加の投資をしている、何か投資しているということがここからみえますので、これ自体は全く問題ないと思いました。
財務活動については、銀行からお金を借りると組織にお金が入ってくるのでここはプラスになります。逆に銀行にお金を返済していると、組織からお金が出ていってしまうのでここはマイナスになるわけですが、今回この合計金額のところを見ると1億3100万円ほどマイナスになっていますので、町の債務の返済に、より多くのお金を充てていると考えると、本業では、きちんと営業ができていて積極的に何かに投資し、さらに、余裕のあるお金で、借金を返していることがここから読み取れるので、一般企業で考えれば、優等生のキャッシュフロー計算書になっていると思います。

損益計算書は、一定期間の経営成績を表すもので、１番と２番を合わせて営業利益っていうのを出すのですが、これは本業で稼ぐ力ですね。下水道で言うと、下水道事業を運営することによってお金が儲かったのか儲からなかったのか、三角になっていって、会計上三角の表示は赤字を意味していますので、3億4200万円ほど赤字になっています。

ただ、下水道事業は儲けるためにやっているわけではないので、これが赤字だから駄目なのかというとそういうわけではないです。ただ、効率性とかいう意味ではもしかしたら何か、問題があるのかもしれないなという印象を受けました。

最も大きな金額が減価償却費になっているので、これまで投資したお金を、少しずつ費用計上している内容になりますが、固定資産が多くあるような組織にとって減価償却はもう避けられないので、それはしょうがないという印象を受けました。

３番と４番の営業外収益と費用は、組織の総合的な収益力になります。

本業で稼ぐ力に、財務戦略とかも入れた例えば利息の支払いとか、本業とは何も関係ない利息の支払、利息の受け取り等がここに入るのですが、プラスになっていますので、組織で考えれば、一応利益も出ているので、全く問題ないのではないかなという印象を受けました。

勘違いしてはいけないなと思ったのは、儲けることに力を入れてしまうと、例えば、町はずれの住民が切り捨てられてしまうというように動いてしまうので、そこは町民の皆さんにもきちんと説明をして、理解していただく必要があるのかなというふうに思いました。

特に一番心配なのは、短絡的に利益を出さなきゃいけないとか、キャッシュフロー計算書で赤字になっているのは問題だと考えてしまう人がいるかもしれないので、それぞれのその、数値がどういう意味を持つのかをきちんと説明していく必要があると思いました。

事務局：今後分析などについて、認識を深めていかなければいけないと考えています。

委　員：資本金、自己資本金というのはどういう意味を持っていますか。

事務局：資本金というのは、決して現金で保有しているというものではなく、今保有している資産の中で、自己資金や返済する必要がない資金が資本金ということになります。

委　員：変動しないのですか。

事務局：固有資本金というのは、この下水道事業会計がスタートした現時点の保有ということになるので、そこは変動しません。

今後、返済しないで良いお金に基づく資本の組み入れというのは、繰入資本金ということに計上されます。

委　員：資本金が減っていくような場合には、何か特別な了承が必要でしょうか。
大体、資本金というのは普通手をつけてはいけないような感じがありますが。

事務局：この繰入資本金は、会計処理の中で、例えば一般会計からの繰入のうち、一般会計からの負担分として、公的な負担分として認められた資本金や出資金、こちらが、今後この繰入資本金に計上されてくるという形になります。

委　員：必要に応じて、手をつけてもいいということでしょうか。

事務局：資本金を小さくするとか減らすような場合には、議会の承認を受けて、減資という会計の処理をします。

委　員：今までのように、同じ人口規模、同じ会計規模というか、財政上同じような、市町と比較して、今後示してもらいたいです。

事務局：大磯町は令和2年度から企業会計をスタートして、ある程度軌道に乗っているので、今後､同じような規模と比べてどういう状況かを見ていく必要があると考えています。

会　長：何をもって問題がないのかっていうのは難しいですが、これが営利組織だとすると、計算書書類はいくつか指摘しなければいけないところがありますが、下水道という公益事業は利益を出すのが目的ではないので、その事実を載せているということです。実際二宮町民がこの事業に関して大して大きな不満を持っていないことは、とても重要だと思います。その結果が、この数値的にここに出てきている。

　この数字自体は、例えばもう債務超過に陥っているかの意味で、そういう問題はないと。

　あと他の市町村と比較するのはなかなか難しいと思います。例えば地形とか、町の中心部から離れているところに住んでいる人が多いと、それだけお金がかかってしまってその分固定資産が増えてしまいます。

　固定資産が増えると減価償却費も増えてしまうので、その分その利益が出にくくなってしまいます。

　まず、利益を出す必要がないということを町民の皆さんと共有した方がいいと思いました。

委　員：減価償却していますね。
それを積立金みたいなものはありますか。
国とかで橋などを更新することにより費用がかかると情報がありますが、準備はありますか。

会　長:一般的に修繕することがわかっていれば修繕引当金という形で計上していくことになります。

　減価償却費はすでに払ってしまったものを、費用配分の原則に従って評価していくものなので、おそらく、メンテナンスのためにお金がかかるとわかっていたら、修繕引当金っていうのは企業会計でやっていきます。

事務局：会計を処理する上で、修繕引当てなどを行うのは、まさにやっているところで、全国

的に企業会計に下水道事業を切り換えの目的と言われているのが、投資資金ですね、自己資金、これを本来積み立てていかなければいけない、そのための企業会計へということで、今の下水道使用料の水準とそれ以外の経費などで、どの程度を引き上げられるのか、または一般会計からの繰り入れをある程度、積み立てでいくべきなのかというのを、今後検討していかなければいけないと考えています。

委　員：やがてやらなければいけない下水道料金の改定があると思いますが、資料を見ている中では、しばらくは下水道料金の改定なしで、いけそうだと考えてよろしいですか。

会　長：借金の返済のスピードによると思います。町の考え方と町民の皆さんの理解にかかっていると思います。潤沢な資金を持った安定的な経営をしているかというとそこまでもないので、どこまで許容するかだと思います。

事務局：今まで現金の収支、年間の収支だけを見ていたものを、これから、長期的な展望を確認していくための公営企業会計であり、今年度切り替わり、それ以降の中で、更新費用とかを見込み、その上で、適正な使用料水準がどういうものなのかを考えていくことになります。

委　員：開発などで団地など作っているが接続しているのでしょうか。

事務局：開発については、接続をしていただく形でお願いしています。

委　員：富士見が丘２丁目の階段状の土地、形状的になかなか難しい大変な工事よくやったなと思いました。

委　員：酒匂の処理場ですが、今後、使用料や維持費の上昇などありますか。

委　員：酒匂の水再生センターも処理開始が昭和57年で、かなり老朽化が進んでいるので、それなりに維持管理費は上昇傾向です。

委　員：当然、料金も上げざるをえない。先のことを考えながら、そういう議論をいつかしなければならないですね。

閉会